

国際シンポジウム「都市の歴史的形成と文化創造力」とURP G-COE Intl.Colloquium

International Symposium “Historical Formation of Cities and Cultural Creativity” and the URP G-COE Intl. Colloquium

+3U

2010年1月、国際シンポジウム「都市の歴史的形成と文化創造力」に都市研究の第一人者であるサスキア・サッセン氏(コロンビア大学教授)を招き、基調講演を委ねるとともに、URP G-COE International Colloquiumとして、世界経済と都市の貧困問題についてインタビューを行った。

■国際シンポジウム「都市の歴史的形成と文化創造力」

2010年1月9日(土)・10日(日)、文学研究科都市文化研究センター主催・都市研究プラザの共催で、大阪市立大学学術情報総合センターと高原記念館で行われた。このシンポジウムは、文学研究科の重点研究「アジア海域世界における都市の文化力に関する学際的研究」の一環として開催された。ここでは、都市文化を三つの歴史的段階-形成と変容の段階(16～17世紀)、成熟の段階(17～19世紀半ば)、グローバル化の段階(19世紀～現在)に分け、学際的な研究領域から多様な議論を紹介する狙いのもと、三段階に対応した「中世都市文化の形成と変容」、「近世都市文化の成熟」、「グローバリゼーションと現代都市」のセッションが行われた。

また9日には基調講演が行われた。金児暁嗣学長による開会挨拶と井上徹(文学研究科教授)による趣旨説明、吉澤誠一郎氏(東京大学准教授)「中国近代都市の社会変容と文化再造」、吉田伸之氏(東京大学教授)「『文化創造力』と伝統都市」、サスキア・サッセン氏「危機の時代のグローバル・シティ-金融から社会問題へ」の講演があった。

講演者のひとりであるサッセン氏は、グローバリゼーションによる資本と人口の世界的移動に着目してきた都市研究の第一人者であり、講演では、都市間ネットワークの増大による都市機能の分化、世界の多極化を具体的なデータを提示しながら解説した。その上で、都市固有の歴史性から形づくられる知識産業の重要性を指摘した。さらに、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した、2008年以降の世界同時不況についても触れた。この問題の要は、金融会社がサブプライムローンを一括して銀行や海外投資家へ販売し、ローン借受人の信用価値とは関連無く商品化するため、低所得層がグローバルな金融システムに組み込まれる点にあるという。今後、住宅ローン債務率の低いアジア新興国や発展途上国で、第2第3のサブプライム問題が起きる可能性があるという警鐘を鳴らし、現代のグローバリゼーションと都市の社会的不平等、貧困問題との関わりを改めて認識させた。

■八木寛之(前G-COE特別研究員)

■URP G-COE International Colloquium 「グローバル都市とホームレス問題」サスキア・サッセン氏へのインタビュー

1月10日(日)、都市研究プラザから14名が参加し、前日の基調講演に続き、サッセン氏への標題にもとづくインタビューを行った。3つのレベルからホームレスとグローバル都市との関係が紹介され、エスノグラフィ的な視点から観察するレベルと、貧困現象も著しいグローバル都市のレベル、そして、グローバルサウスやサブサハラといった世界スケールでの排除の問題として考えることを提唱された。

次にホームレスが、1980年代以降、都市問題として政治化され、世界の各地でそのタームの意味するところが広がったこと、そしてそれは経済システムの変動と関連して考えるべきであることを強調された。



インタビュー-水内(左)とサッセン氏

こうしたホームレス問題は政治的なものとして取り組み、常に戦略的に位置付けてゆく必要があるとしめくくった。午後からは、大阪のインナーエリアの同和地区、寄せ場、在日コリアン集住地区を研究員らの案内のスタディツアーに参加された。なお、インタビューの詳しい内容は、「ホームレスと社会」2号(2010年4月)に掲載されている。

■水内俊雄(都市研究プラザ副所長)

On January 9th (Sat.) and 10th (Sun.) of 2010, an international symposium titled “Historical Formation of Cities and Cultural Creativity” was held jointly by the Urban Culture Research Center of Osaka City University's Graduate School of Literature and Human Sciences and by the Urban Research Plaza. In the keynote address on the 9th, Professor Saskia Sassen of Columbia University spoke about the enlargement of networks between cities through globalization and problems related to the worldwide recession that began in 2008. Then, on the 10th, an International Colloquium was held in the form of an interview with Prof. Sassen on the theme of “Global Cities and the Homeless Problem.” The audience was impressed by the fact that she posed the homeless problem as a political problem, and stressed the necessity to always lay it out strategically as an outstanding political issue for cities.